令和５年度　那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画
委員の評価集計及び総合評価

基本目標１　相談支援の充実	判定 A	判定 B	判定 C
		16	

施策の方向性	判定 A	判定 B	判定 C	施策の方向性に対する評価
1　分野横断的な包括的支援体制の整備		16		B
2　多機関との協働・連携		15	1	B
3　相談支援体制の充実	1	15		B
4　情報提供の充実		16		B
5　権利擁護活動の推進		16		B

⇒

Ａ、Ｂ、Ｃで評価
↓

基本目標に対する総合評価
B

Ａ：計画を上回る成果が上がっている
Ｂ：概ね計画どおり順調に進んでいる
Ｃ：計画から遅れている点、改善する点がある

小委員会のご意見

・子育て相談センター運営事業の成果指標が利用人数になっており、これだけではどのような相談支援されているのか分かりにくいため、他の指標があるとよいのではないか。
・相談内容について様々なデータはあるが、評価の指標とすることは難しいのではないか。
・ひきこもり相談では更なるネットワークの充実が必要で関係機関の連携がされるとよい。
・どこに相談したらよいかわからない場合は、社会福祉協議会の窓口を案内している。
・Ｃ評価だった社会福祉法人の連携について、集まる機会がなかった、B.C.Pについて一緒に話せる機会があればよい。
・父母の会では、今はSNSで情報を収集できる、会員を増やすことは難しい、世代間の交流がない、若い会員が少ない。
・学校では子育て相談課との連携はよくできている。家庭が相談先をわかっているかは疑問がある、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが今後増えていってほしい。孤立している家庭、ヤングケアラーなどは、つなぎ先、地域と関わりが課題となっている。スクールソーシャルワーカー制度の使いやすさが不十分ではないか。
・庁内の連携の取り組みが進み、庁内の縦割りがなくなってきているので情報の共有がしやすくなっている。
・情報提供では、誰に情報を届けるのか、情報を発信しても届いているか確認ができないなど踏まえて情報発信の方法を検討する必要がある。

令和５年度　那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画
委員の評価集計及び総合評価

基本目標２　社会参加の促進	判定 A	判定 B	判定 C
		16	

施策の方向性	判定 A	判定 B	判定 C	施策の方向性に対する評価
1　制度の狭間にある人への社会参加支援		16		B
2　孤独な人・孤立している人への社会参加支援		16		B
3　日常生活で支援を必要とする人への社会参加支援		16		B

⇒

A、B、Cで評価
↓

基本目標に対する総合評価
B

A：計画を上回る成果が上がっている
B：概ね計画どおり順調に進んでいる
C：計画から遅れている点、改善する点がある

小委員会のご意見

・ひきこもり支援では、本人にアプローチが難しいケースでは、実際の支援においては、まずは周りの家族から徐々に支援している。
・制度の狭間の人がサービスを利用しにくい。障害支援サービスでは、障害がない方でも受け入れて体験をしてもらい、先に進むきっかけになっている。
・目的のない居場所が必要ではないか。クーリングシェルターのような目的がなくても、なんとなくそこにいられることが必要ではないか。
・子ども食堂で、多動がある下の子の参加を断ったら上の子が下の子を見るようなり、解決に至らなかった事例があった。
・地域学校協働本部推進事業について、メンバーに主任児童委員を入れることで学校と地域の連携が大切にしている。
・軽度障害であれば施設での受け入れが可能だが、重度障害だと受け入れてくれる施設がなく、入所施設がないと生きていけない人がいる。
・地域学校協働本部推進事業については、委員選びが重要であり、若い世代や女性の意見を取り入れることが重要である。地域の理解を進めないと社会参加にいたらない。
・目標値がないと評価が難しいため、何らかの指標があるとよい。
・ひきこもりなど表面化しにくいケースは思っている以上に多いため把握する方法を検討する必要がある。
・高齢者のつながりとしての敬老事業事業などの効果を行政で考えてほしい。
・障害者の就労したときの定着率について、辞めてしまう原因を把握する必要がある。

令和５年度　那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画
委員の評価集計及び総合評価

基本目標３　地域づくり（地域力の強化）	判定 A	判定 B	判定 C
		16	

施策の方向性	判定 A	判定 B	判定 C	施策の方向性に対する評価
1　地域で支え合う仕組みづくり		16		B
2　安全・安心なまちづくりの推進		16		B
3　交流の場・活躍の場づくりとボランティア・市民活動の推進		16		B

⇒

A、B、Cで評価
↓

基本目標に対する総合評価
B

A：計画を上回る成果が上がっている
B：概ね計画どおり順調に進んでいる
C：計画から遅れている点、改善する点がある

小委員会のご意見

・地域づくりについて、子育てサロンではお母さんが支援される側で集まってくるが、小さなことで誰かの力になりたいと思っているので、小さな活動が地域で広がるとボランティア活動ができない人でも些細なことで社会参加ができるのではないか。
・以前、市が取り組んでいた、市民が普通の生活をしながら子供たちを見守りする活動が広まっていないため、市の方で定期的にアナウンスしてもらい広がっていけばよい。
・精神疾患などの病気をお持ちの方のための活動として、イベントを通して他の人との接点を作り、理解促進につなげている。
・新興住宅地では挨拶だけの現状に対しては、きっかけづくりが大切であり、しゃべらないと始まらないので、ささいなことでも声掛けから関係性が深まる。
・自治会加入率がなかなか上がらない。アパート、マンション、分譲地で加入者が少ない。どのように参加してもらうか自治会に投げられても困り、民生委員で見ていくことはとても大変な状況である。
・自治会、コミュニティ自体を考え直す必要がある。若い世代の考え方を取り入れていくことが大切である。三島地区では、地域学校協働本部に２０代の方をメンバーとして入れている。
・育児中のお母さん、認知症の高齢者の方、小・中学生などの世代間の交流が図れる多世代が自然に集まれる居場所が必要ではないか。
・地域住民助け合い事業について、足並みが揃ってきているが、その後に何をするのかを検討すべき。
・自主防災組織について、地域での温度差があるが、地震、豪雨などのいろんな災害が懸念される中で、組織を立ち上げる後押しの時期ではないか。
・高齢者、子どもに対する支援は充実しているが、働き盛りの世代が地域活動へ参加できるように支援が必要でないか。
・サロンについては、元気な高齢者は通われているが、健康に不安がある高齢者も来れるよう検討すべきでないか。
・自殺率の目標値が13.2%となっているが、13人まで自殺してよいともとれるので、目標は0%にすべきでないか。